

第4回 あいりん地域のまちづくり検討会議におけるアンケート結果等の集約

資料 4

1. 性別		2. 年齢						3. お住まい			4. ご意見		5 鈴木顧問からの回答				
性別		70歳以上	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	19歳以下	未記入	西成区	大阪市内（西成区外）	大阪府（大阪府を除く）	大阪府外	未記入			
																	今回議論された内容への ご意見
1	男性				1								1		労働問題の受け皿はないとのことでしたが労働問題を抜きにして移転や建て替えのイメージができるのでしょうか？（労働センターの事です）	労働センターについての議論（移転・建て替え・機能等）をするなら国・府もこの場に出てくるべきでは。	確かにご指摘の点はもっともだと思います。この会議でできることは、労働行政の詳しい中身まで立ち入らずに、耐震化やまちづくりの観点から、大まかな方針を出すところまでだと思います。出てきた意見は記録し、労働行政を所管する国、府に申し送りをしたいと思います。
2	男性		1							1					労働行政の過去40年間のしてきたことを総括してほしい。その上であいりんセンターの今後を検討していくべき	ご指摘の点は、よく理解できます。ただ、労働行政の中身や今後については、この会議では受け皿がなく、議論を完結できません。この会議でできることは、労働行政の詳しい中身まで立ち入らずに、耐震化やまちづくりの観点から、大まかな方針を出すところまでだと思います。出てきた意見は記録し、労働行政を所管する国、府に申し送りをしたいと思います。	
3	女性					1							1		釜ヶ崎の将来のまちづくりについて、現時点での情報（環境・条件）をもう少し詳しく共有した上で議論が進められると、さらに有意義な場になるのではないかと思います。	釜ヶ崎の防火対策、安全管理の現状と課題について、耐震問題以外のソフト面（地域防災等）も協議していく必要性を感じた。	大変重要な指摘をありがとうございます。この会議では、大きな方針案、配置案を打ち出すところまでが役割だと思っておりますが、すでに、防災の観点の議論は出てきています（救急の跡地の一部を活用すべきという文脈です）。
4	女性		1										1		最初から各委員の議論を見せてくれると意義があるのに。我々はだれがどういった内容で議論をするのかを知りたかったのが今回は良かった。しかしはじまりの説明はつまらなかった。出入り口を塞がれなかったので少々安心できた。スタッフが緊張して立っているのももう少し離れた位置に居てほしい。	4班に分かれていたので各班に回れなかった。3時間もあったのに無駄な時間が多かった。もっと有意義に傍聴できるように考えてほしい。「来場者」はおかしい。プラッと遊びに来たわけではない。みんなこの町が好き！ていねいな議論は良いがいじくりまわすのはやめてほしい。ファシリテーターがまとめすぎ 威圧的になるな！	ご指摘をありがとうございます。現在の運営方法がベストであるとは思っておらず、毎回、試行錯誤を続けております。会場のみなさんにわかりやすいことも重要な点ですが、委員の皆様が議論しやすい環境を作ること、ともに重要と考えておりますので、ご不便をおかけすることもあるかと存じますが、ご理解を賜ればと思います。
5	男性		1							1					西成区長が露店の許可制について考えているのとの報道について以前のアンケートかポストイットに書きました。西成区長さんも出席しているのに、口頭でも文章でも反応がありません。西成区長はツイッターをやっているのにこの会議の広報をやっていないのはなぜでしょうか。フェイスブックでいいね！を押しているのはよく見かけるのですが、委員名簿に記載されている人は毎回全員が出席しているのでしょうか。誰が出席した欠席したということを知りたいです。どうしても大声で自分が意見を言いたい人がいます。会議の前か後にでも別時間を取って、校門の前でも拡声器を使って、希望者にしゃべらせてみてはいかがでしょう。第二回アンケート結果として「利権関係の構図について説明」というものがありました。特掃、ひと花プロジェクト、不法投棄のパトロール等の事業が一部の団体、企業への利益供与に思えます。不法投棄のパトロールは随意契約と橋下市長が言ってましたが、こういった事業は競争入札にするべきではないでしょうか。	ご意見をありがとうございます。西成区長関係のご指摘は、西成区長に申し伝えます。また、出席者については、直前まで出欠が確認できないために、（事前に大量に印刷する）配布物で皆さんに当日にお示しすることはできませんが、事後的に、HPなどで報告することは可能だと思いますので、区役所事務局に検討してもらいます。このように、運営方法については、不断の見直しをしてゆきたいと思っております。利権関係という点ですが、これはこの会議のテーマではなく、むしろ西成特区関係のすでに行われている事業に対するご指摘だと思います。私も、適切な事業主体が事業を行っていると考えておりますので、利益供与という認識は全く持っておりません。随意契約については、市長の判断で、実際に効果を迅速に上げるための手段として、例外中の例外としてこのような措置にしております。ご指摘の内容については、担当部局に申し送りたいと思っております。	

第4回 あいりん地域のまちづくり検討会議におけるアンケート結果等の集約

6	男性								今回までの議論を聞いて、この一連の議論が「西成特区」という、ひとつの行政区を核として進めるべき内容ではないことが明らかになったと考えます。「西成」＝「あいりん」＝「労働者の街」という固定観念をふっしよくするためにも、この枠組での議論は、第6回をもってすみやかにやめるべきだと感じました。市営住宅については、その中において緊急性などあることから単体として議論を具体的に進めるべきです。	西成特区の話は西成特区として、この一連の最新宮駅周辺の議論は別途大阪日本の課題である「労働センター」の今後について軸として再構築すべき。まちづくりについては民間の動きも含めて一つ一つ積み重ねが重要。	ご意見をありがとうございます。6回でひとまず議論を一区切りにしたいと思います。住宅については、移転先を含め、単体で議論しては到底結論が得られるとは思いませんので、この会議の中で結論を得たいと考えています。
7	男性								西成区を良くしていきたいという共通の思いを確認して、そこをスタート地点として話をススめることが、建設的だと感じた。	街をどうたんでいくかも重要だと思う。縮みゆく社会の中で何を残すかを地域住民が合意にかけて、議論して処するのが重要と思いました。	重要なお指摘をありがとうございます。現在は、大きな方向性を得るための議論をしており、橋下市長の「えこひいきする」という特別の予算措置が行われているので、縮小という観点がそれほど出ていないのだと思います。ただ、今後、具体的な議論・予算化や事業化になっていったときに、縮みゆくという観点が否応なく重要になってくると思います。
8	女性								社会医療センターの機能強化を(結核センター ○○先生も提案)精神 救急		ご指摘をありがとうございます。すでに委員の中からも同様な指摘が出ていますので、具体化の議論になる段階で、十分に検討したいと思います。
9	女性								このような会がもうけられていること自体とても素晴らしい事だと思います。(他の自治体と比較しても)みなさん本当におつかれさまです。さまざまな方の意見があるので、各課題ごとに本当にその問題に密接にかかわるメンバーで話をする必要かと思いました。良い地域にしていくためにできることをしていきたいと思ひます。		ありがとうございます。いろいろな意見をお持ちの方がいますが、この地域を良くしていこうという思いは同じだと思いますので、議論が実を結ぶものと期待しております。引き続き、ご理解とご協力をよろしく願ひします。
10	男性								鈴木氏は「市長と知事しか決定権はない」と明言した。会場から「決定権のない人間ばかりで話しても無意味」という意見も出た。鈴木氏は「皆さんの意見は必ず市長にあげる。市長の回答次回に公開する」といったが、「皆さんの意見が尊重されるかどうかについては保証できない」と言った。このような会議では開催の意味がない。決定権のある者の出席を用意すべきである。		この会議は意思決定をするための会議ではなく、地域の意見を整理してまとめるための会議です。市長は「地域でまとまった意見を最優先に方針を決定する」と西成区の区政会議で区民の前で明言しており、知事も同じ考えです。どのようにそれを保証するのか、今、市長に考えてもらっており、いずれ皆さんの前で、保証や担保の仕方を考慮した発表が行われることになると思います。恐らく、地域の方々やマスコミの前で、決断をして、実行を公約するという形の担保になるのではないかと個人的には想像しています。私にできることはそこまでであり(したがって、私自身にその保証はできませんと発言したつもりです)、保証をするのは市長や知事の役割だと思います。私が行っているのは、地域の意見を最優先に決断し、実行するという市長の言葉を信じて、地域の意見を整理し、まとめて報告するという事です。私はそれを無意味だとは思っていません。また、今後、たとえリーダーがだれになろうと、解決すべき課題は同じであり、それに対して地域がまとめた案は強い影響を持つと思ひます。
11	男性								今回やっと各テーマに沿った議論が進み良かったと思ひ。但し、委員はもっと前から議論に入っていたのに、傍聴席での話はおくれている。もっとテーマ別に意見交換をしたい。	子どもの世帯をどう呼びこむかを中心に①保護者の労働②住宅③医療④地域住民の居場所と議論の輪を広げていけばよいのでは ・都構想、特区とこの地域がどう関連していくか、整理必要・ワークショップの補助員、もっと地域を理解している人にすべき話をまとめてきていない。	ご指摘はごもっともだと思います。時間がなく、十分な議論が尽くされていないことは認識しています。この会議では、大きな方針案を得るところまでが役割であり、個別の論点の具体化は別の議論になると思ひます。その際に、十分に時間をかけて議論してゆきたいと思ひます。
12	女性								労働グループのファンリ水内さんのまとめ(フロア全体)がずいぶん実際の話と違い、そのために傍聴者が怒ってしまったと思ひれます。具体的には2点きいたこともないまとめでした。1点目「高層化すればたとえ建て替えても場所が生まれる」←そんな意見はなく、むしろ「現場をつくる話は一切ない」で一致しました。2点目「現場にこだわらない」こんなことを言った委員は一人も居ませんでした。アリバイじゃないなら録画して下さいね。まだ発言されたことのない内容をまとめて発表してはいけません。ファンリテーターとして失格なので罷免交替を要求します。		ご意見をありがとうございます。1点目については、1クール目が出た「現地で建替えて高層化すれば場所がうまれる」という意見も踏まえた上で、現場を移る話はないということで一致したということ。2点目については、その場である委員が言ったことを確認しています。ただ、労働関係施設は、おおむね、ほとんどの方が、今の立地の中で考えるべきだという点でまとまったと認識しています。現場にこだわらないと発言した委員も、現地での立地を考えることを否定したわけではないと理解しています。
13	男性								医療センターの根本的な問題として、各科に分けるより医療全般として見る事が医療の基本である。		重要なお指摘をありがとうございました。おっしゃる通りかと思ひます。

第4回 あいりん地域のまちづくり検討会議におけるアンケート結果等の集約

14	男性		1												資料4、No7のアンケートに関して鈴木顧問のコメントから 本検討会議と国府市三者会議(三者会議)との関係が今一度わかりません。例えばこれまでの検討会議で出された西成労働福祉センターの機能や役割とあいりん労働公共職業安定所のそれについてよくわからないという意見が出されています。この会議での最終ゴールが「ゾーン分け」と言われていることから、両会議との関係が明らかにならず、同時進行している三者会議の内容を公開していただくよう本検討会議からも要請していただきたいと存じます。そうしていただかないと、新たなあいりん総合センターの機能、規模、立地を議論していく際、この会議で出された意見をまとめた方向性について、あとは三者会議に委ねるというのでは、この議論が本当に実現できるのか、その担保は明らかではありません。とくに「労働の機能」を新しいまちづくり議論の中で生かしていく、反映させていくかが重要な課題です。早急に国府市の議論をオープンにして、ここでの議論とジョイントさせ、オープンな形で議論を進めていかなければならないと思います。ご意見をお聞かせ下さい。	※上記の内容は本日の傍聴者との議論の中で鈴木先生からコメントされたことをふまえて今後明らかにしなければならぬと思います。◎鈴木先生はここでの議論をまとめて次のステージにつなげるとおっしゃっています。又、「シミュレーション」を検討している段階であるとおっしゃっています。それではここでの「労働」の議論は何をいつまでにまとめるのか明らかにしなければならぬと思います。お考えをお聞かせください。	当日お答えした通り、行政の検討会が行ったことは、この地域の会議で出てくるであろう個別案について想定し、前もって、行政的な課題を洗い出し、実現可能性などをシミュレーションしたということです。地域ででた案を迅速に具体案にするために、こうした作業は不可欠のものだと理解しています。ただ、具体的な予算の裏付けもなく、皆、想定の上で想定をした仮想的なシミュレーションですので、それをすべて公開することは、結論だけが独り歩きしてゆき、無用の混乱を招く可能性が高いと考えております。もちろん、公開できる概要についてはまでは公開を行っています。行政の検討会で出てきたシミュレーション、パーツの議論は、地域の方々の意見をまとめる段階で、それに反映されて出てくることとなります。労働の議論をいつまでにまとめるのかという点は、会議で出てきた意見を記録し、労働行政を所管する国、府に申し送りしたいと思っております。
15	男性		1												現在、住宅の住民の高齢化が進んでいるので、バリアフリー機能が必要だと思う。それと共に若い世代が住める住宅にすべきだと思う。労働センターの建てかえに関しては労働者の意見を1人1人きくべきではないかと思う。最終的に橋下市長が決定するならば、橋下市長が会議に出席するべきではないだろうか。	図書館等を西成区内につくるべきではないか。	貴重な意見をありがとうございます。バリアフリーや若い人が住める環境については、委員たちや第一住宅の説明会でも意見が出ておりました。図書館についても興味深い提案です。労働者たちの意見を聞くという点、市長の件については、すぐにお答えできることではありませんので、検討をさせていただきたく思います。
16	男性	1													維新の会の意向に基づいて運営するのは、おかしい。		維新の会の意向に応じて運営はしておりません。誤解です。市長や知事の意向に応じて行っていることだと認識しています。
17	男性		1														
18	男性		1												2008年度に、耐震診断の結果が出てからすでに6年が経過している。Is値0.2という、法的には、「地震に対して倒壊や崩壊の危険性が高い」となっていて一番悪いランクの数値にもかかわらず、今まで放置した状態になっている。無人の建物ならいざ知らずセンターには常にたくさんの方がいるのだ。真っ先に耐震補強を行い少しでも危険性を低くするのが、行政の責務だ。「西成特区構想」に絡めるのは間違っている。これは人命にかかわる問題なので完全に切り離して大至急耐震化すべし。いつ地震が起こるかわからない。		現時点で、一番効率的で迅速な解決策は、今やっている議論を進めることだと思います。6年間、市・府・国が耐震補強を中心に議論を行ってきても、3者それぞれの利害が一致せず、議論がまとまらずに現在に至っているのです。それを続けても、迅速に解決策が得られるとは到底思えません。また、行政的には、建て替えが決まっている建物に、本格的な耐震補強を行うということは不可能であり、耐震補強か、建て替えか、部分移転・全移転か、いずれの方針化を早く決めることが重要と考えます。

第4回 あいりん地域のまちづくり検討会議におけるアンケート結果等の集約

19	男性 第4回検討会議 への意見書		1					1	<p>意見 1点目に前半、一般参加者に「意見」を限定して発言を求めていたが、質問をしてからでないと判らないことがたくさんある。確かな情報を基にしないと間違った意見を言ってしまうかねないので意見を限定せずしっかりと質問にも答えるべき。2点目に今の件と関連して労働行政に関することは多くが国の所管であり、当該者不在では情報もほとんど得られず、意見どころか質問もろくに出来ない。したがってこの検討会議のなかで「この会議は、センターのあり方をどうするかが主題だ」という主旨の発言がよくあるが、まちがっているので取り消すべき 3点目も今の件に関連するが、センターについての問題は2008年度におこなった耐震診断で強度が著しく不足していた事に端を発しているのであって建物の耐震性をどうするかが喫緊課題であったにもかかわらず、はじめの3年ほどで国、府、市の3者間で結論がまだでていなかったことに乗じて2011年に「西成区特区構想」を持ち込み、「センターピンである総合センター全体をどうするか」という問題にすり替えている。事は人命に関わる問題だ。倒壊、崩壊の危険性が出来る得る限り低くなるよう大至急しなければならない。したがってセンターの耐震問題をどう解決するかが最優先事項だ。耐震強度不足が判明してから早や6年経過しているが、そもそも耐震問題にかかる法律(耐震改修促進法)を発布しているのは国であり、その国が区分保有している建物が問題の対象になっているにもかかわらず、一体何をしているのか？この件についてはまず国は何を言っているのかを知りたい。まさか市もしくは府・市に耐震問題、労働行政問題とも「おまかせします。そちらで決めてくれたら従います」などと言っているのではあるまいな？</p>	<p>1点目についてはご主旨を理解しました。私も質問を軽視するつもりはなく、前回は意見を言う機会だったことと、時間の制約があったことから、意見をお聞きすることを優先しました。実際には、質問も随分あり、答えたと思います。また、質問であれば、例えば、このアンケートのような形でお答えすることができます。そして、会場のワークショップという形でも、これまで随分と質問にお答えしてきました。労働行政について、国と府が入った会議をすべきという点は委員の議論でも出ておりますので国、府に申し送りをしたいと思います。第二点目ですが、この会議の本題だといっているのは、あいりん総合センターという意味での「センター」です。労働福祉センターの「センター」ではありません。第三点目の耐震化の話ですが、確かに行政の不作为と放置は大きな問題です。ただ、現時点で、一番効率的で迅速な解決策は、今やっている議論を進めることだと思います。6年間、市・府・国が耐震補強を中心に議論を行ってきても、3者それぞれの利害が一致せず、議論がまとまらずに現在に至っているのです。それを続けても、迅速に解決策が得られるとは到底思えません。また、行政的には、建て替えが決まっている建物に、本格的な耐震補強を行うということは不可能であり、耐震補強か、建て替えか、部分移転・全移転か、いずれの方針化を早く決めることが重要と考えます。第四点目ですが、国や府の考えは、それぞれに問い合わせさせていただくべき問題かと思えます。ただ、市に労働行政の話全てを任せるなどという考えはないと理解しています。</p>
----	------------------------	--	---	--	--	--	--	---	--	---